枠にはまらない支援

社会福祉学部会福祉学科２年　浅野真佑
活動先：NPO 法人　ゆめじろう
ゼミ：松下典子先生

１目的

私は夏休みにサービスラーニングを行った。そこで、どういうことを学んだのか、学んだことを何に生かすことができるか、ということを論じてみた。そして最後には、自分は何が出来るのか、地域にどのようなことが貢献できるのか考えていく。

2 コミュニケーションの大切さ

コミュニケーションの大切さは、サービスラーニングを通して一番痛感したことだ。私は、コミュニケ―ションを取ることが苦手だ。自分の思っていることを相手に伝えても。相手が思っていることを伝えてくれなかったら、コミュニケーションは絶対に取れないと思っている。しかし、ゆめじろうの職員さんは上手くコミュニケーションのとれない利用者さんに対しても、その方の気持ちをくみ取ってきちんとコミュニケーションをとることができていた。そのことは、不思議で仕方なかった。しかし、サービスラーニングを続けていくうちに、なぜ、コミュニケーションをとることができていたのか、少しずつだか、気付くことができた。

まず、コミュニケーションは言葉だけではないということに気付かされた。講義で言語コミュニケーションと、非言語コミュニケーションを習い、非言語コミュニケーションのほうがよく使うと聞いたが、全く忘れていた。その中で、職員さんの行動を、見ていくうちに、利用者さんの身振り、手振りでコミュニケーションをとっているということに改めて気付くことができた。また、利用者さんの特性を理解し、言葉遣いや NG ワードなどに気を付けることで、コミュニケーションを円滑に進めていた。さらに、利用者さんだけでなく地域の方とも積極的にコミュニケーションをとることで、どのような施設なのかを理解してもらえる機会を設けている。その例として、こじろうでのコンビニにお菓子を買いに行くことや、ゆめじろうでのコロッケの販売、ゆめじろうで毎年開催されている夏祭りがある。

ゆめじろうでのコロッケ販売は、就労支援事業で利用者さんが作ったコロッケを販売し、その収益を利用者さんのお給料にするという事業だ。就労支援事業で働いているような時がうれしい？」と聞いたところ、「コロッケを販売していて買ってくれたお客さんにありがとうと言われる時が一番うれしい」とのことだった。このようなことで、利用者さんと、地域とのコミュニケーションをとることができている。普段の暮らしの場を通して、一般の方がイメージしている障害を持っている子に対する負のイメージというものを払拭して、障害を持っている子のみんなと変わらないイメージが出来る。そのため、安心してゆめじろうに訪れることができる。

ゆめじろうでの夏祭りはゆめじろうの利用者さんやそのご家族はもちろん、元職員さんや地域に住んでいる子どもたち、さらには日本福祉大学の大道芸サークルの方がボランティアに来ていたりと大変なにぎわいを見せていた。そんな中、私はゆめじろうの広報力が足りないとのことで、ゆめじろうのチラシ作りを行った。チラシ作りでもコミュニケーションの大切さに気付くことができた。初めは、ワードで作ったチラシだったが、「職員の方に手書きの方が温かみがあるし、読みたいと思う」とアドバイスをいただき、手書きに書き換え、対話式のチラシに変更した。初めは、自分が分かればいいという考えでチラシを作ったが、アドバイスをいただいたことで、誰にでも分かるようにという考えに変わった。自分だけに分かるようにという考えでは、コミュニケーションをとることはできない。自分の考えが相手に伝わって、初めてコミュニケーションが成立する。それは、会話だけにとどまらず、文面などにも共通すると考えた。そして、そのチラシを夏祭りで配布した。その後、職員さんが私たちの作ったチラシを見て、ゆめじろうにきた利用者さんもいると聞き、とてもうれしくなった。

3、決めつけない

みなさんは、障害者というとどのようなイメージを持つだろうか。私は、怖い、何をするか分からない、出来れば関わりたくないと思っていた。この考え方は私だけではないだろう。もちろん、今ではそう思っていない。そのような考えが払拭されたのは、ゆめじろうにサービスラーニングに行った１つの要因である。

利用者の方は、コロッケ作りなどを行っていた。また、こじろうではその子、その子に合わせた学習が用意されている。例えば、ボールペンを組み立てたり、色分けをしたりと様々な種類の活動が用意されている。そこで、その子に合わせた学習を職員が探し出している。そして、コロッケ作りでは職員さんの付き添いはなく、利用者さん自身で自ら率先して行っていることが、印象的だった。また、やり方を教えていただいたときも、障害があるということを忘れてしまうぐらい自然だった。

ここで学んだことは､障害があるからできないということを決めつけないということだ。ゆめじろうはその人、その人に合ったプランを作成することで、利用者さんの能力を最大限に引き出す。最大限に引き出すことで、地域に貢献する。そのことを生きがいにする。そこから、決めつけないということを学んだ。

４、　まとめ

サービスラーニングを通して､コミュニケーションの大切さや決めつけないことを学んだ。そして、地域に寄り添うことの大切さも改めて大切だと感じた。地域に受け入れられなければ、活動をすることはできない。地域に寄り添い、地域のニーズに合わせたプランの作成が必要とある。また、地域に受け入れられるためには、どのような活動をしているのかを明確にする必要があることと、伝えるための広報力をもう少し強くしていかなければならないと感じている。

そして、ゆめじろうで学んだことを、3 年生の実習に生かしていきたい。